

## 瀬戸内タウンミーティング（豊原地区）

平成 21 年 11 月 2 日（月）19 時～21 時

豊原コミュニティセンター 大会議室

参加者：男性 18 人、女性 3 人、計 21 人

### 市民から出た意見と市長の反応

- ・市長は瀬戸内市を「田園型都市」としたいのか、あるいは東京のような「都市」を目指すのか？

（市長）どちらかと言えば「田園型都市」。今、瀬戸内市に住んでいる人たち、その方たちにゆかりのある人たちにとって安定したまちを目指したい。

- ・人口推計によれば、今後人口が減っていくことになるというが、これでは夢がない。どのような年齢層が増えるのが望ましいのか。働き盛りの人が増えるような施策が必要なのではないか。

（市長）この人口推計は何の手立ても講じなければこうなるということ。目標人口を高め設定していても達成できない自治体がほとんどである。厳しい推計を行い、そこから人口をどのように上積みするかが重要である。決して希望的な予測ではない。また、人口構成については生産年齢人口を増やすことが基本となる。それは子育て支援、働く場の確保等が必要になってくると思う。ある層が突出して多くなれば、これも様々な問題が生じてくる。人口はバランスが必要だと思う。

- ・この基本構想は理想論であると思う。実現しようとすれば予算的に厳しくなるのではないか。

（市長）行政は 5 年程度先の夢を描いてまちづくりを進めるべきではない。きれいごとにはなるが、目指すべき一番素晴らしい状態を目標に行政を進めていかなければならない。これは企業の経営目標も同じ。夢に少しでも近づけるためには、当然お金の使い道を考えていく必要がある。

- ・ハコモノの建設は慎重に考えてほしい。

（市長）ハコモノを作れば、維持管理も必要であり、そこには人も必要になってくる。合併した市町村が有利な条件で使える合併特例債は、瀬戸内市の場合、平成 26 年度まで。どうしても必要なものについては考えていく必要があると考えている。例えば、市民病院については、まず、どのような医療サー

ビスを将来に向けて残していくのかを考える必要がある。その上で、必要な医療サービスを残していくための方法として、建て替えが必要となってくる場合も考えられる。決してハコモノありきではない。

- ・ブルーラインから北は発展しているが、南側はまちが暗い（明かりの問題ではなく）など、中心部と周辺部の格差が大きくなってきている。以前はブルーライン南側に大型商業施設が立地する計画もあったようだが、立ち消えになった。生まれ育ったところに住み続けられる人が多いまちを目指してもらいたい。

- ・以前あった大型商業施設の立地計画は、農振の問題で破綻になったと聞いている。

（市長）中心部だけでなく、周辺部を発展させるのは行政が取り組んでいかなければならない問題であると考えている。豊原地区だけでなく、市内にも同様の問題を抱えている地区はある。また、商業施設の立地については、企業の判断により決定されるものであり、行政の力だけでは難しい。

- ・生きがい、夢のない人が多い。

（市長）生きがいについては、自分で見つけるのが基本である。しかし、それを見つけやすいように情報発信方法を考えるのは行政の仕事だと考えている。

- ・他の地区のイベント情報等が伝わってこない。

- ・市広報紙や議会だよりなど、団体ごとの配布物が多すぎる。まとめることはできないか。また、ページ数を減らすことはどうか。

（市長）広報紙やホームページにも限界があるのは事実である。市民の方々にも情報を取りに行く力を身に付けてもらうことが必要であり、今後市の取り組みとして進めたい。また、広報紙については、市民の皆さんが求めている情報が掲載されているのかどうかを検証してみる必要がある。ただし、必要な情報であれば、広報紙のページ数が多くなってしかるべきである。

- ・アパートが乱立し、消防車が入りにくいところもある。解決策として都市計画の線引きは考えないのか。

（市長）乱開発は、人口が増えるが、長い目で見ると道が狭くて通れない等の問題が生じるという２面があると思う。今後、都市計画の導入も視野に入れていかなければならないが、「自分の家の建て替えが難しくなる」など他の市町村の事例もあり、良いことばかりではないのも事実である。

・豆田の企業団地を中心に企業誘致を行う必要があると思う。

(市長) 豆田企業団地については、1 区画が残っており、この区画に企業が立地すれば税の減免も受けられる。市としては、まずこの団地を売り切ってから他の地区を考えていく必要があると考えている。そのためにも、吉井川の堤防上の道の整備も必要である。

・学校教育については、校長、教頭をはじめ先生方に任せておけばいいと思う。教育委員会は社会教育、生涯学習に力を入れていくべきではないか。

(市長) 学校に任せられる教育委員会のあり方を考えていく必要はあると思うが、教員の人事権を県が持っていることもあり、地域の問題を地域で処理しにくいシステムになっていることも事実である。任せきりでは学校がもたない。教育委員会がどのようにバックアップできるかを考える必要がある。

・人権教育に力を入れてもらいたい。結婚差別など様々な問題がいまだに残っている。人権教育を進めれば人が育つ。

(市長) 人権啓発は、人それぞれの多様性を認めることであり、教育の中で進めていくべき課題であると考えている。しかし、教育委員会の人員が少なく、人権教育に十分職員を充てられていない現状もあり、啓発効果をいかに高めていけるかを考えながら進めていく必要があると考えている。

・副市長は、なぜ瀬戸内市を選んだのか。

(副市長) かねてから40歳を過ぎれば、何らかの形で地域に貢献したい、持っている力を地域に還元したいと考えていた。地域への貢献については様々な形があると思うが、現在は「地域主権」、地域をいかに元気づけることができるかを考えていた折に、瀬戸内市副市長の公募を見つけた。東京周辺の自治体では意味がなかった。

・施設（病院）へ入った場合、3ヵ月経過すると退所（退院）しなければならない。家族も困っていると聞く。行政は何らかの形で関与できないのか。

(市長) 長期入院の場合、市民病院においても経営に影響が出てくる。現在の医療制度は見直されてしかるべきである。難しい問題であるが、市として何ができるか、を考えていく必要がある。

・行政主導のまちづくりであってはならない。あくまでも市民主導であり、市民がどのようにかかわっていくのか、市民に最後まで責任を持たせる方策を考える必要がある。市民も、行政にしてもらうのではなく、我々がしなけれ

ばならない。そんな姿勢が必要である。

(市長) 第2次総合計画の内容については、主語は全て「瀬戸内市＝市民+市役所」である。「市役所」の計画ではない。あくまでも市民目線の計画であり、策定段階においては、市民の皆さんに様々な形でお示ししていきたいと考えている。作るのが目的ではなく、作ったあとが出発点である。また、タウンミーティングについては、毎年新しい視点で対話していきたいと考えており、来年はもっとたくさんの人に来ていただきたい。依頼があれば、小さい集落の会合にも出向いていきたいと考えている。開催時期については、予算編成前としたい。

・岡山市ではトイレットペーパーの芯など雑紙の回収も実施している。

瀬戸内市の考えはどうか。

(市長) 雑紙、生ごみ、そして事業系ごみの減量について考えている。今後、市民の皆さんにご協力をお願いすることになると思う。